



2013.2.21-2.28

第4回台南市青少年訪問団

報 告 書

主催：公益財団法人 仙台国際交流協会



目次

ごあいさつ	1
実施概要	2
団員名簿	3
行程表	4
訪問先地図	5
事前・事後研修会レポート	6
活動班紹介.....	7
団員レポート.....	14
日本文化P Rブース	30
フォトアルバム	32
台南サポーターからのメッセージ	36
日本人サポーターからのメッセージ	38
同行者より	39
編集後記	



ごあいさつ

第4回の台南市青少年訪問団は、大学生30名及び同行職員2名が参加し、平成25年2月に実施されました。

小雪の舞う仙台を出発し、陽光が煌めき、色鮮やかな花が咲く台湾で過ごした8日間、そこでの心温かな台湾の方々との出会いは、団員たちに一生の思い出を残してくれました。

今回の訪問の特徴の一つに、宿泊先である樹谷会館向かいの樹谷生活科学館前に日本文化PRブースを設け、日本文化の体験や仙台を紹介するイベントを実施したことがあげられます。また、台湾の先住民の生活体験として、今回は初めてブヌン族の村を訪問しました。

日本文化PRブースでは、浴衣の着衣体験や日本の正月の遊びなどの他、団員たちが作成した震災後の復興の様子や仙台の現状を示すビデオの上映なども行い、多くの市民の方々に賑わったとお聞きしました。この訪問団の目的の一つに、台南の市民の方々に感謝の気持ちや仙台の今の様子を伝えるということがあり、こうした場を設定していただいたことに感謝しています。

ちょうど桜が満開だったブヌン族の村で、団員たちは、村を散策しながら日本統治時代を含むその歴史について説明を受け、夜にはブヌン族の文化の特徴として知られている8部和音の合唱、その翌日には近くの小学校を訪れ、子どもたちの澆刺とした合唱のプレゼントを受けました。台湾には、このような多様で豊かな文化があることを知り、団員たちは深い感銘を受けていたと伺いました。

奇美グループの方々が、季節等を考慮しながら、毎回、内容や訪問先を少しずつ変え、訪問が一層充実したものとなるよう、ご配慮いただいていることに改めて感謝申し上げます。

最後になりましたが、今回も、訪問団受入れにあたりご尽力いただいた奇美グループや財団法人樹谷文化基金会の方々、現地でお世話いただいた学生ボランティアの皆さん、暖かく迎えてくれた台南市民の方々、その他、多くの方々に心から感謝申し上げます。

平成25年4月

公益財団法人仙台国際交流協会

台南市青少年訪問団について

仙台市と友好交流促進協定を結ぶ台湾の台南市では、東日本大震災の直後から、「送愛到仙台（仙台に愛を送ろう）」の名のもとに活発な募金活動が行われ、また、台南市に本拠地を置く奇美グループがスポンサーとなり、「復興を担う人づくりこそ経済的支援にも勝る最も確かな支援である」という考えのもと、3年間で約300人の仙台の青少年を台南に招待するプロジェクトが生まれました。

これを受け、仙台国際交流協会では、第1回訪問団派遣を大学生等を対象に平成24年2月に実施し、第2回は高校生を対象に、第3回は大学生等を対象に、それぞれ8月に行いました。

現地では、奇美グループの担当の方のほか、日本語を学ぶ台湾の大学生が訪問団に同行するなど、青少年どうしの活発な交流が生まれています。

実 施 概 要

仙台市と交流促進協定を結ぶ台南市に青少年を派遣し、現地の青少年との交流や台南市内の見学、日本文化の紹介などを通して、異文化理解を深める機会とする。また、震災後にいただいた支援への感謝や、現在の仙台の状況を伝える機会とする。

1. 訪 問 先 台湾 台南市および近郊
2. 実施時期 平成 25 年 2 月 21 日(木)～2 月 28 日(木) 7 泊 8 日
3. 主 催 財団法人仙台国際交流協会
4. 協 力 仙台市
5. 後 援 仙・台友好交流促進協会
6. 参加人数 青少年 28 名 サポーター2 名 同行者 2 名
7. 募集対象 仙台市内にお住まいか通学する 18 歳～22 歳の方(大学・専門学生等、年齢はいずれも平成 24 年 4 月 2 日現在)で下記の条件を全て満たす方
 - 1 学生であること
 - 2 心身ともに健康であること
 - 3 日本国籍を有すること
 - 4 国際交流、異文化理解に関心があり、ツアーの趣旨を理解・賛同し、団体行動に参加可能であること
 - 5 定められた日程・旅行条件で参加できること
 - 6 東日本大震災での経験を踏まえ、台湾の方々に仙台の元気や、感謝の想いを伝えることができること
 - 7 事前・事後研修(全4回程度)に参加できること
 - 8 平成 23、24 年度に仙台国際交流協会が主催した海外派遣事業に参加していないこと
 - 9 未成年者の場合は、保護者の承諾が得られること
8. 事前研修
 - 第1回目 平成 24 年 12 月 8 日(土):ツアー概要説明、グループ分け
 - 第2回目 平成 25 年 1 月 19 日(土):仙台市と台南市の関係について(仙台市交流政策課、仙・台友好交流促進協会より)、事前学習内容の発表
 - 第3回目 平成 25 年 2 月 2 日(土):ツアーの最終確認、各グループの進捗状況報告・準備
9. 事後研修
平成 25 年 3 月 9 日(土):アンケート記入、ツアーの振り返り



○青少年団員名簿

★男8名、女21名 計29名

番号	氏名	ふりがな	性別	学校名	学年
1	浅野 早紀	あさの さき	女	宮城教育大学	2年
2	遠藤 麻矢	えんどう まや	女	東北工業大学	3年
3	太田 恵	おおた めぐみ	女	東北学院大学	2年
4	貝森 義仁	かいもり よしひと	男	宮城教育大学	4年
5	川村 愛	かわむら あい	女	宮城教育大学	1年
6	河村 奎太郎	かわむら けいたろう	男	東北大学	2年
7	菊田 紘子	きくた ひろこ	女	東北学院大学	3年
8	菊地 佑香	きくち ゆか	女	宮城学院女子大学	1年
9	木村 あずさ	きむら あずさ	女	山形大学	4年
10	後藤 俊	ごとう しゅん	男	宮城教育大学	4年
11	齋藤 陽介	さいとう ようすけ	男	東北大学	4年
12	坂本 奈央	さかもと なお	女	東北大学	2年
13	佐藤 愛衣	さとう めい	女	宮城学院女子大学	3年
14	菅野 恵	すがの めぐみ	女	宮城学院女子大学	2年
15	多賀野 惇久	たがの あつひさ	男	宮城教育大学	1年
16	武田 小百合	たけだ さゆり	女	宮城教育大学	2年
17	田崎 帆乃実	たざき ほのみ	女	宮城大学	2年
18	常木 綾子	つねき あやこ	女	東北生活文化大学	2年
19	中嶋 灯奈	なかしま ていな	女	東北大学	3年
20	橋元 絢香	はしもと あやか	女	宮城学院女子大学	1年
21	服部 麻衣	はっとり まい	女	東北大学	2年
22	林 高大	はやし たかひろ	男	東北大学	4年
23	邊見 ふゆみ	へんみ ふゆみ	女	東北大学	2年
24	星 寿寿美	ほし すずみ	女	仙台白百合女子大学	4年
25	森田 悠記子	もりた ゆきこ	女	東北大学	4年
26	山内 崇寛	やまうち たかひろ	男	宮城教育大学	4年
27	吉原 友梨	よしはら ゆり	女	東北学院大学	2年
28	渡邊 成	わたなべ じょう	男	宮城教育大学	2年
29	渡邊 麻衣	わたなべ まい	女	仙台大学	4年

○サポーター

1	速水 邦晃	はやみ くにあき	男	東北大学	2年
2	西澤 良香	にしざわ よしか	女	東北学院大学	4年

○同行職員

1	佐藤 剛	さとう たけし	男	(財)仙台国際交流協会 企画事業課長
2	赤坂 恵利加	あかさか えりか	女	(財)仙台国際交流協会 企画事業課 企画係

第4回 台南市青少年訪問団 行程表

日次	日付	場所	移動手段	時間	行程	宿泊先
1	2月21日(木)	仙台	仙台空港	13:30	1F 団体待合室集合	
		仙台-台北	飛行機 BR117	16:15発-18:55着	仙台空港⇒台北桃園空港	
		台北-台南	台湾新幹線	21:21発-22:43着	桃園駅⇒台南駅	
		樹谷園	専用バス	23:50頃	台南駅⇒樹谷会館	樹谷会館
2	2月22日(金)	台南市	専用バス	午前	朝食	
					学生との交流(仙台紹介)、樹谷の案内	
					移動	
					古跡-安平古堡	
				午後	昼食(安平老街・台湾式屋台)	
					移動	
					古跡-赤崁樓+武廟	
					移動	
				夜	成功大学訪問	
					移動	
夕食(小龍包)						
移動						
台日交流パーティー	樹谷会館					
3	2月23日(土)	台南市	専用バス	午前	朝食	
					移動	
					米食DIY(粽を作る)	
					農村生活体験+菁寮老店巡り	
				午後	昼食(自分で作った粽を味わう)	
					移動	
					古跡-孔子廟、日本式の建物	
					台湾の茶道(奉茶-十八毛にて)	
				夜	移動	
					花園夜市、夕食	
移動	樹谷会館					
4	2月24日(日)	台南市	専用バス	午前	朝食	
					移動	
					烏山頭ダム	
					移動	
					樹谷科学館見学	
				午後	昼食(樹谷会館)	
					日本文化PRブース-本番	
					移動	
				夜	正統鹿耳聖母廟の花火大会	
					移動	樹谷会館
5	2月25日(月)	台南市	専用バス	午前	朝食	
		移動				
		昼食(先住民のオリジナル料理)				
		午後		先住民生活体験(布農族)		
				夕食(先住民のオリジナル料理)	兀瑪斯民宿	
				夜	先住民パーティー	(布農族の村・民宿)
6	2月26日(火)	南投県	専用バス	午前	朝食	
		先住民生活体験				
		昼食(先住民のオリジナル料理)				
		台南市		午後	移動、途中、小学校を訪問、合唱を聴く	
				夕食(樹谷会館)		
				夜	感謝カード作り	樹谷会館
7	2月27日(水)	台南市	専用バス	午前	移動	
					大洲地区-朝食DIY、生態地区の建設	
					移動	
					奇美博物館	
				午後	昼食(社員食堂)	
					移動、途中、安平近くの砂浜で遊ぶ	
					お別れ交流会	
					夕食(樹谷会館)	
		台北市	移動			
			台南駅⇒桃園駅	中壢中信大飯店		
ホテルへ	(ホテル)					
8	2月28日(木)	台北市	専用バス	午前	朝食	
		台北-仙台	飛行機(BR118)	10:05発-14:15着	ホテル⇒桃園空港	
		仙台空港	各自	15:30頃	桃園空港⇒仙台空港	
					解散	



□台南市

台湾の古都。オランダ人支配の後、明の鄭成功支配時代や清王朝時代は台湾の首府となり、政治・経済・文化の中心地でした。その後、日本の占領統治時代を経て、現在は、台湾第4の都市となっています。人口は、約187万8千人（2012年4月現在）。

仙台市とは、七夕を通じた市民交流の高まりを契機に2006年1月20日に交流促進協定を締結し、活発な市民交流が行われています。



事前・事後研修

☆事前研修

	日時	内容
第 1 回	12月8日(土) 13:00～ 17:00	・(財)仙台国際交流協会の事業説明 ・ツアー概要説明 ・出し物などに関するチーム分け
第 2 回	1月19日(土) 13:00～ 16:00	・仙台市と台南市の関係 ・海外渡航に関する説明 ・事前学習内容の発表 ・出し物などの準備、チームの進行状況報告 など
第 3 回	2月2日(土) 13:00～ 16:00	・講義「台湾の過去・現在～日本との関係を中心に～」 ・スケジュール最終確認 ・出し物などの準備、打ち合わせ など ※16:30より烏山頭ダムに関する映画:「パッテンライ ～南の島の 水物語～」上映会

* 参加者コメント *

第一回は特に初対面の時のよそよそしいような独特の雰囲気でした。この時の第一印象と打ち解けてからの印象に大きなギャップがある人もいて今となってはおもしろいです。

事前学習や映画鑑賞によって、台南を訪れる前に訪問先に関する知識を付けていたことで、現地でより感心を持って説明を聞いたりすることができたと思います。

☆事後研修

	日時	内容
事 後 研 修	3月9日(土) 13:00～ 16:00	・ツアーの振り返り ・アンケート記入 ・報告書作成について など

* 参加者コメント *

せいぜい10日ぶりの再会なのに、メンバーの顔を見ると久しぶりに会ったようで嬉しかったです。そのくらい、台南訪問で濃密な時間を過ごせたということでしょう。

それぞれの感想を述べる時間なども頂き、記憶が褪せないうちに台南で感じたこと、思いをシェアできてよかったと思います。

(佐藤愛衣)



食いしん坊 1 班

【メンバー】



もり (貝森義仁)
ぞうさん大好き
ゆるゆるリーダー



先生(河村奎太郎)
ネット中毒者
マイペース野郎



ピロコ (菊田紘子)
危険生物
元ヤン(今も?)



ほのみん (田崎帆乃実)
天然妹キャラ
JAY の推しメン! ?



JAY(黄拍宗)
チャラ男、ファッションモンスター
「吉原・宿行こうぜ!」



★ 1 班の思い出★

○花園夜市

1 班は「我慢なんてしねえ!」精神で、夜市につく前から屋台でモグモグ(笑)夜市につくと、まずその人混みに圧倒されました。「とりあえず、どうする?」「やっぱ、ゲテモノ巡りでしょ」と、という謎の勇気を発揮。鴨の頭、豚の血、コオロギをむしゃむしゃ。異国にくと、人間は強くなるものなんですね(笑)

○お茶会

孔子廟見学のあとのお茶会です。高級感のあるカフェで素敵な時間を過ごしました。茶師の方々は美男美女ぞろい!じっくりと飲み味わったあと 18 年後にむけたタイムカプセルをつくり、再会を誓いました。3 日目にして漂うサヨナラ感は少し寂しくもありましたが…(笑)



○旧正月の花火

台南のお寺にて旧正月の締めくくりを祝う盛大な花火を見ました。日本より規模が大きく近くで見ていた私たちには大量の火薬の雨が (笑)みんなで見えた花火は一生忘れられない最高の思い出です!



○感想

1 班の思い出は JAY との思い出でした。いつもあちこちに振り回してばかりいたけれど、笑顔で応えてくれた JAY。最後のお別れ会では「最高の班だった!」と言ってきて全員涙しました。本当にありがとう!そして、いつか日本でも台湾でも必ず再会しましょう!!

不運な(笑)2班



よっけ(163cm)[齋藤陽介]
頼れるリーダー！！
でも、変態※¹！！笑
TカラTミーの期待の星☆



ゆりゆり(155cm)[吉原友梨]
ドS※³なクールビューティー(笑)
タイトスカート7色※⁴持ってます。
このツアーでは、SDカードを無く
すという悲しい経験をした。



かりん(推定161cm)
日・英・西・中の4ヵ国OK！
パラグアイに在住経験あり。
1日しか一緒に活動できなかったけど
楽しかった！ありがとう！



赤坂さん(自称158cm) **2班平均身長155.2cm！**
ヒジ☆神※⁸

はしも(148cm)[橋元絢香]
チビ1号、バッテンライ2号※²
見た目は子供！頭脳もアホ！
その上チキンという噂。



もっちゃん(155cm)[坂本奈央]
ドMさかもと画伯※⁵
そして、バッテンライ1号。
誤字脱字が多い！※⁶



アクビ(147cm)
無茶ぶり大好きチビ2号。
みんなのアイドル！みんなの妹！
大阪弁のアクビ※⁷に乞うご期待！



寺で踊るちっちゃいものクラブ2班→



☆2班の思い出☆

どこに行こうが、この2班のメンバーと一緒にならなんでも楽しい！お寺で流れる音楽にノリノリで反応！小龍包は争奪戦！奇美科学館では、勝手に別行動！集合時間に間に合わせるためのダッシュ＆ダッシュ！身長は低いけど心はでっかいやつらなんです。第2組、最棒！（よっけ）



罰ゲームから始まったツイテない2班ですが、サポーター含めメンバー1人1人が個性的で面白かったです！班行動では時間に追われてダッシュする場面もしばしば(´o`) そんな2班がすきです！赤坂さんの肘神には2班全員が萌えましたwww第二組雖然個子都很矮，但是最棒！（ゆりゆり）

個性豊かで自分をもっているメンバー勢揃いの2班！いつも笑いは絶えず(時々疲れて無言)いつも写真でどんなポーズを撮るか考えている2班！台南ではこんな楽しい仲間と元気な台南サポーターと共に活動できて幸せな日々でした(/・ω・)/ ひとつ悔いが残るとしたら、それはドラゴンフルーツを食べられなかったことだけです。(はしも)



2班では色々和不運な事がありました。罰ゲームとかSDカード紛失とか(笑)でも、サポーターのアクビとかりん、そして赤坂さんのおかげで楽しい思い出も沢山！花火のお祭りのとき、みんなで踊り狂ったのはいい思い出。不運な2班でしたが、みんなと行動できてよかったです！やっぱり第2組最棒！（さかもと）



[注釈]※¹空港でゆりゆりに「脱げ！」コールをしたためw※²坂本が「旦那」を書き間違えて×印で消した事をバツイチの予兆とされ、バッテンライ1号と呼ばれるようになった。はしもが2号なのは縁結びのお守り無くしたためm9(´Д`)※³大人しそうに見えてかなりドS。※⁴ゆりゆりの代名詞タイトスカート。通販などで買い集めた結果7色も揃えてしまったとか。※⁵坂本の絵は2班メンバーには理解できない完成度。※⁶事後研修でパーティーをパーティーと書き間違えたことなどから。※⁷アクビは大阪に留学するらしい。加油！！※⁸ストラックアウトで有り得ない場所へボールを投げたため2班は赤坂さんをヒジ神と認定した。でも、赤坂さんには本当にお世話になりました。ありがとうございましたm(_)m



3班の愉快的仲間たち



川村愛: あい

- 3班の豚の血担当(笑)一人だけ変顔しなかったね...
- KPOP大好きいつもニコニコ笑顔がかわいい妹キャラ!
- たまに怒っているように見える3班のキュートな写真屋さん。

by じょー
by つねちゃん
by はやし



渡邊成: じょー

- 常に全力がモットー! 原住民族にもなれちゃう盛り上げ隊長!
- 変顔気持ち悪いけど面白くてみんなのムードメーカー的存在!
- みんなを盛り上げる一方でまじめな一面もよく見せるリア充。

by あい
by つねちゃん
by はやし



常木綾子: つねちゃん

- いつも落ち着いていてクールなツッコミがひかるオシャレガール♪
- つねちゃんの変顔と低温ボイスがとても魅力的でした★
- 変顔を駆使するちっちゃいエンターテイナー。

by あい
by じょー
by はやし



林高大: はやし

- 英語が堪能ですごく頼りになるけど、ちょっぴり変態なリーダー!
- 林さんの印象は変顔と変態これに尽きます! 笑盛り上げてくれて謝謝!
- 写真うつり悪いけど英語ペラペラで頼れる私たちの団長!

by あい
by じょー
by つねちゃん



Hannah Yang: かおり

- 美人で知的で優しくて、向かうとこ敵なしのK-POP大好きお姉ちゃん!
- 完璧なプロポーションを持った人生の勝ち組! 彼氏もイケメン(@_@)
- 林さんが言ったイケナイ単語も辞書で調べちゃう位純粋美少女!
- 変な日本語ばかり教えてごめんなさい。

by あい
by じょー
by つねちゃん
by はやし

• お別れ会
最初は泣くつもりなんかなかったお別れ会...。かおりの涙を見て3班全員大号泣でした。かおりは、一番日本語が下手って自分で言ってたけどそんなことはないよ。だから僕の名前が「城」になったことは秘密にしておくね。謝謝!
by じょー

• 成功大学
図書館などに連れて行ってくれてありがとう! 大学の銅像をくぐったあとに、その銅像をくぐったら、入試に落ちるんだって教えてくれたね。早めに教えてほしかったな。東北大学にぜひ留学にきてください。by はやし

サポーターとのエピソード集



• 安平古堡
古跡でかおりが「この煉瓦は牡蠣のからと米と砂糖で出来てるんだよ」と一生懸命教えてくれた姿が忘れられません! 謝謝かおり!
by つねちゃん

• 花園夜市
たくさんの人であふれかえってた夜市を、かおりは離れないように私たちに一生懸命声をかけてくれたよね。豚の血ともち米の食べ物は正直美味しくなかった(ToT) by あい



4班

今

回の旅は奇跡的なメンバーに恵まれて最高の旅になりました。私は主に写真に写る役と、踊る役でした。私が輝いたところは、弓矢で風船を割ったことと、肩から炎が出ていたことです。校長先生によれば、善良でイケメンなのだそうです。後は、イビさんにもお世話になりました。イビさんは多分3年分ぐらいの名前を旅では言われたと思います。振り返ってみれば、原住民の村にピークがありました。楽しかった！美味しかった！つかれた！みなさんありがとう！

山内崇寛

面

白いものがあると僕がすぐにふらふらと行ってしまうので、カニちゃんは口癖のように「あっつどこ〜っ?」と言っていたそうです。すみませんでした。4班はいろんな意味でお騒がせな班でした。孔子廟ではフルーツかき氷に気を取られて遅刻したし、夜市では豚血や蟋蟀串、臭豆腐といった、日本では一般的でない食品に果敢にチャレンジ。騒ぎまくっていましたね。とにかく食べて、走って、泣いて、笑って、最高に充実した一週間でした。ありがとう！ 多賀野惇久

力

ニちゃんと繰り広げられ続けた、「まいまい『蚵仔煎(おあぜん)』って言って」「おあぜん」「かわいー♡」の意味不明なやりとりを私は一生忘れません。交流会で優勝したり、夜市で珍味を食べ漁ったり、花火で大興奮したり、お別れ会で号泣したり。笑い転げっぱなし、全てに全力の4班でした。我愛4班♡

服部麻衣

私

がこの班の思い出で一番印象に残っているのは、4日目の夜に行ったお寺のお祭りの花火！ 私たちの頭上で上がった花火はとても綺麗で迫力満点でした〜(^O^) その花火を見てみんなではしゃいだのはとても楽しかったです☆(カニちゃんは火花が飛んでくるのを恐れてビビってましたww)

菊地 佑香

笑い担当

山内崇寛

パンツ担当

菊地佑香

かわいさ

・癒し担当
服部麻衣

写真映像担当

多賀野惇久





5班、改め5飯

お一た(太田 恵)

5飯のお洒落&しっかりさん担当！のんびり屋さんかと思いきや、ウエットティッシュ常備だし、周りが見えてるしっかりさん(^ω^)毎日おしゃん！色のあわせが上手です☆By.めんち

ゆきこ(森田 悠記子)

5飯のリーダーゆきこさん！！リーダーシップと食に対するこだわりで5飯皆を引っ張ってくれます！頂く速さは光のごとく。「わあ〜おいしそう！いただきます〜す(^人^)」もりこさんは少女のようにピュアで可愛い人です！ゆきこスマイルと笑い声はみんなを幸せにする！By.太田

メンバー紹介



ピヨンス(浅野 早紀)

5班のムードメーカーであり、夜市の屋台の怪しい食べ物を制覇していった同志。夜市は4人で徒党を組んでトイレに並んだのに、残念ながら台湾人のおばさんに織り込みされてしまった。そんな悔しい経験を次の日のサービスエリアのトイレではいかになく発揮してくれて、「ゆきこさん、3番のトイレ」とあんな混み込みの状況から冷静に判断できる、台湾に順応していく姿はとても頼もしかった！1週間ありがとう！By.森田悠記子

めんち(佐藤 愛衣)

めんちさんは天使。思いやりと気配りのかたまり。女子力の権化。でもでもパッキングは出発当日、迷子になっても無事生還、乙女だけれども肝は据わっている。5飯だけでなく4期みんなのお姉さんの存在です(^^)By. 浅野

御飯伝

サポーター クマ (葉家希)



誰も頼んでいないのに突然豚血湯(豚の血を固めたものが入ったスープ)を買ってきたのでなんで？と聞くと、生理にきくからだと言。女子への思いやりもここまでと父親を超える勢いですね。わたしたち愛されています。ちなみに豚血湯のような鉄分直接摂取系食品は、女の子のいる家庭では月に1度必ず食べるらしいですよ。

クマのおすすめグルメ「パパイヤミルク」！！台湾に行った際にはぜひお試しあれ！！/(//x//)ちなみに5飯は飲めずじまい、、、。生きるか死ぬかの混雑の中、クマ氏は「みんな〜パパイヤミルク飲む〜？」と聞いてくれたことがありました。そこで飲めなかったこと、私たちは後悔、、、、してません！！(笑)迷子には気を付けましょうね！

伝説が3つ生まれる。愛衣さんを連れてトイレに行くために彷徨っていたはずなのに、立ち止まったのがインド式ミルクティ屋さんでした。そしてここで浅野のポケットからカリカリに乾いた肉が出てきたりしました。(伝説1)まもなく悠記子さんの「肉捨てたの？もったいない！」発言(伝説2)、クマの「愛衣〜？これ飲む？」発言(伝説3)が生まれます。だからトイレ行きたいんですよ！！このネタ5飯では鉄板なんですよ。思い出し笑い。



ルックと楽しい仲間たち 6 班

《メンバー》

木村あずさ…6班のお母さん！（笑）
武田 小百合…妹キャラさっちゃん！
邊見 ふゆみ…意外に毒舌！
渡邊 麻衣…6班一の自由人！
鄭宇傑（ルック）…ノーパンサポーター！

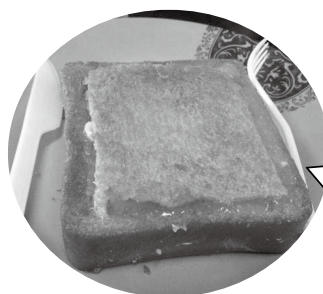


～思い出紹介～



原住民生活体験はとっても盛りだくさんな内容でした！狩りの体験、集落の見学、尋常じゃなく美味しいごはんの後は布農族の方々のパフォーマンスに圧倒され、ついには全員が踊り狂う始末。国境を越えた絆が生まれていました。ルックも大はしゃぎでしたね。次の日も吊り橋を渡ったり、小学校で素敵な歌のプレゼントをもらったり、とにかくワンコがかわいかったり…これも全部原住民の皆さんがあたたかく迎えてくださったからこそ。忘れられない思い出をもらいました！

ツアー3日目の台南式お茶会も6班の楽しい思い出の一つです。おいしいお茶を片手に楽しくおしゃべりする中で、ちょっとしたハプニングもありました…。茶師の方々がご姉弟というお話を聞いて、「家ではどんな感じなんだろうね」と私たちが日本語で噂話をしていると、サポーター・ルックがそれを全部台湾語に訳してしまったのです！茶師の方はちょっと苦笑い…通訳志望のルックは、どこまで通訳するかも勉強した方がよさそうですね(笑)台湾の香りを楽しんだお茶会でした！



海外に行ったらその国の料理の味を楽しむのも醍醐味！ということで、私たち6班も様々な食べ物を堪能しました。まずは日本のとは量が全然違うかき氷です。氷の量はもちろんのこと、味付けがシロップではなくマンゴーやパイナップル、バナナなどのたっぷりフルーツがのって大満足！そしてもう一つ印象に残ったものは台南名物である「官材板」という食パンの中にクリームシチューが入った料理です。ルックにおすすめされて食べてみて、アツアツでとろみがおいしかった～。他にもこの文章では紹介できないおいしい料理が沢山あって、台湾料理はとっても魅力的でした！

このように、忘れられない思い出いっぱい
充実した一週間でした！では、最後に…

「だってえ、穿きたくないんだもん。」

ルックの秘密…それは！
最終日に明かされた衝撃の事実。
そう、彼はノーパンだったのだ。(ﾟдﾟ)ポカーン





台南 foods!!!

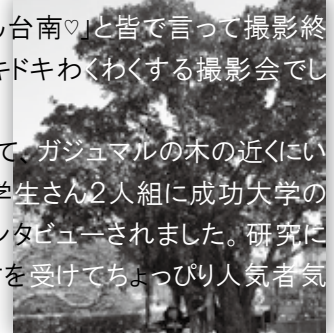
台南では毎日のように驚くような食べ物に出会った。中でも、豚の血の固まりがスープに入っている料理が特に印象深かった。また臭豆腐というちょっと癖のある豆腐も食べた。こうやって台南の食べ物を食べていく中で、だんだん現地になじんでいくような気がした。全般的に濃い味付けで香辛料も独特であるのが特徴であり、個人的にとっても喉が渇いていた。笑 なので飲食店に行く際には飲み物は必須！ということを学んだ。



突撃取材？

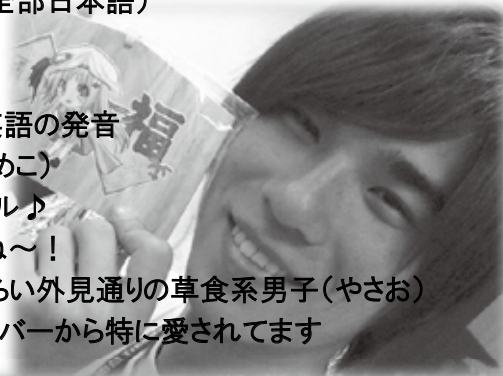
何かと取材を受けることの多かった7班。まず、安平古堡のあと昼食を食べた台湾料理のレストランにて、テレビ局の人が「インタビュー受けてもらえませんか？」とやってきました。突然のことに驚きながらも取材を受けることに。でも料理が来てもテレビ局の人なかなか来ない…！食べ終わりかけた頃にやっとやって来て撮影開始になりました。インタビューに一人ずつ答えたあとみんなで「うおーしーふあん台南♡」と皆で言って撮影終了。緊張しながらも、ドキドキわくわくする撮影会でした。

それから、成功大学にて、ガジュマルの木の近くに行ったら、近くを歩いていた学生さん2人組に成功大学のイメージなどについてインタビューされました。研究に使うのかな？2回も取材を受けてちょっぴり人気者気分になりました☆



さとネタ-あんなこと！？こんなこと！？-

- ・サトシは台湾サポーターの中で一番日本人的！寧ろ日本人！
- ・ツイッターもやってるぐらい(全部日本語)
- ・「おこ！」とかも使っちゃう
- ・朝は ZIPP 派
- ・英語が何でか日本人的な英語の発音
- ・なめこが好き(待ち受けもなめこ)
- ・好きな CM はもちろんインテル♪
- ・語尾をよくのぼす 例:だよね～！
- ・彼女のカバンを持っちゃうぐらい外見通りの草食系男子(やさお)
- ・みんなの人気者 7班のメンバーから特に愛されています



THE ★
7

MEMBER PROF. GROUP 7

星寿々美(しょうめい) 劉哲佑(さとし) 遠藤麻矢(またつ) 菅野恵(めぐめぐ) 中嶋灯奈(ティナ)

母担当 煙乳煙乳煙乳

ベツ担当

妹担当 自由奔放な野生児

姉担当 ノリノリガール

父担当

哲佑から一言:

ウルトラ好きな大体日本人

哲佑から一言:

哲佑から一言:

食べっぶりのいい天才肌

なんか、しょうめいは

7班から一言:

同じだね、雰囲気

とても優しくてあんまり

哲佑から一言:

ツッコミのイメージ

みんなさとしがだいすきです

感らない(▽▽)

ていなのはアーティスト

だね



台南市青少年訪問団 報告書

団員レポート



2月21日(木)

□出発と宿泊先(樹谷会館)

今回は参加者の多くにとって初めての台湾ということで、出発から気分は高揚していました。仙台空港での出発式では、副団長のよっけさんが「これまでの人生で最高の一週間にしよう！」と宣言！(団長の林君のコメントは覚えていない…笑) 早くも皆の心が一つになる瞬間が生まれました。台湾へのイメージを膨らませながら、最高のスタートが切れたと思います。

また、私たちが宿泊したのは樹谷会館という施設で、非常にきれいなところでした。施設に到着したのは深夜でしたが、台南サポーターが出迎えてくれて、これから始まる研修に全員が胸を弾ませていました。(貝森義仁)



2月22日(金)

□学生との交流

台南に着いた翌朝、私たちは台南のサポーター達と出会いました。サポーターの紹介があった後、ちょっとしたパフォーマンスを見せてくれた人もいました！(右写真)

各班にひとりずつサポーターがついて、みんなで交流会をしました。仙台と台南ではどちらが大きい？とか、人口はどちらが多い？など仙台と台南に関する〇×クイズを一緒に解いていくうちに、はじめは緊張気味だった場の空気も次第にうち解けていきました。この場で初めて知ったこともたくさんあり、勉強にもなりましたし、サポーターと仲良くなることができてとても有意義な時間でした！(邊見ふゆみ)



□台南のグルメ —安平老街、台湾式屋台—

ようやく、台湾らしい食べ物にありつけた、万歳！狭い路地の両端に多くの店が立ち並ぶ。狭い。狭くてもバイクが通ろうとする。危ない。そんな狭い路地の1つのお店に突撃。どうやら、台湾サポーターもご存知の有名店らしく、そこで豚ひき肉かけご飯と、牡蠣入りオムレツ、肉入り台湾もち、台湾式ラーメン、海老巻を食した。どれも50元前後で、お手軽価格。台南の飯は、スープは薄味、固形は甘い味付けのものが多く、好みが分かれるところだが、海老巻と、豚ひき肉かけご飯は、しっかりと味がついており、日本人好みの味付けで、本当に美味しい！また、食べに来たい店、ここにあり。(齋藤陽介)



□古跡— 安平古堡・赤崁楼

17 世紀にオランダによって建設された安平古堡。台湾統治の中心というのも納得の広さ。陸続きになる前は 1 つの島を砦としていたというから驚きだ。米・砂糖・石灰で作られた赤レンガの壁、大砲などオランダの名残も随所に見られる。周辺の町並みも古風で良い雰囲気。お土産にも頂いた安平特有の魔除け「劍獅」がそこかしこに描かれており、メンバーのみんなは劍獅探しに夢中！

午後に訪れた赤崁楼も歴史ある古跡。17 世紀にオランダが建築して以来、明鄭・清・日本統治時代と様々な政権の下で改築が行われてきたという。科挙の守り神、魁星爺が祀られている文昌閣には合格祈願の札が所狭しと飾られていたが、受験票まで置いてあったのにはビックリ！流石、科挙が行われていただけあるな…と日本との文化の違いを感じたのだった。(坂本奈央)





□成功大学訪問

私たちは成功大学に行き、成功大学の学生に日本語で説明していただきながら大学見学をしてきました。成功大学は台湾の国立大学です。驚くことに学部は48もあるそうです！大学全体はとても広く、自転車で移動する学生が多く見られました。すごいと思ったのは図書館の大きさと、町や市にあるような大きな図書館でした。唯一、図書館の中に入れなかったのが残念でした。説明してくれた成功大学の学生はとてもバイリンガルな方々で素晴らしいなという印象を受けました。写真は図書館の写真です。(橋元絢香)



□夕食-小籠包

夕食は成功大学近くの繁華街で小籠包などを食べました。店内は、学校帰りや仕事帰りの方々ととても賑わっていました。

皆さん料理が運ばれてくるや否や、箸を伸ばして勢いよく食べ始めていました。熱々のまま口の中に入れ、ハフハフいいながら食べる人も。他に出された料理としては、水餃子、エビ餃子、紅油水餃子、春巻きなどでした。紅油水餃子は少し辛く、食べられないという方もいましたが、それ以外はどれも日本人の口に合う料理ばかりで満足でした。(河村奎太郎)



□台日交流パーティー

交流パーティーでは、日本の学生、台湾のサポーターがそれぞれ用意してきたゲームを行いました。台湾サポーターが準備してきたゲームは“ビンゴゲーム”と“心臓病”。心臓病とは、日本と言う豚のしっぽに似ているトランプゲームです。チーム代表者戦では、異常なまでの集中力と瞬発力を見せつけてくれた学生メンバーたち。それぞれが興奮状態の中、競ってカードを叩く度に周りからも絶叫と歓声があがりました。白熱した試合の結果、総合ポイントで4班が見事優勝。最下位の2班には罰ゲームが待ち受けていました。「目を瞑って、口を開けて」。台湾サポーターの掛け声と共に、会場内の学生からもどよめきが。「えー!?ちょっと、なにになに!?」抵抗する間もなく口に何かを投入される2班のメンバーたち。「感想はどうですか??笑」台湾サポーターにマイクを向けら

れると、声の代わりにパチパチパチッと何かが弾ける音が。それはなんと・・・綿菓子でした。それを見て互いに爆笑し合う学生とサポーターたち。とにかく楽しい時間だった！（菊田紘子）



2月23日(土)

□農村生活体験

台南の郊外にて、農家の方々の手助けのもと、ちまき作り、そして、実際に田植えを行いました。その活動だけでなく、道中にて、日本人とわかると気さくに日本語を話しかけてくれる姿が印象的で、日本統治時代の日本語教育とは郊外まで徹底されていたのかとしみじみと実感させられました。多くの方々が優しく、丁寧にご指導してくれ、おいしいちまきを頂くことができました。（林高大）





□かき氷と孔子廟

私たちの班は、食欲旺盛な班でした。そのため孔子廟に着いて自由行動になった瞬間、一目散に莉莉氷菓店に駆け込み、各々かき氷やフルーツジュースなどを堪能しました。暑い台南で冷たいものを口にし、極楽気分には浸っていたところ、残り時間が少なくなっていることに気づき慌てて孔子廟へと向かいました。台湾で最初の学校という意味である「全臺首學」の四文字が、入口に大きく書かれており厳かな感じがしましたが、中に入ると泉や木々があり、このような優雅な環境で勉強してみたいと思いました。偉そうなことを書きましたが、時間の配分はかき氷：孔子廟＝2：1ですし、勉強は嫌いです。(渡邊成)



□台湾の茶道

2月23日に、十八毛にてお茶会を行いました。台湾の茶道は日本の茶道のように堅苦しいものではなく、おしゃべりや音楽を聴いてワイワイと楽しむものらしく、この時もギタリストの方々の弾き語りを聴きながら歌ったりしてお茶を楽しみました。

美人と美男の茶師の方が丁寧にくださった貴妃美人茶と紅玉紅茶の2種類のお茶は、香りも良く、深い味わいでした。お茶菓子との相性も良く、有意義な茶会の時間を過ごすことができました。

また、皆の夢を書いたお茶をタイムカプセルに詰めたので、18年後にまたここに来て開けるのがとても楽しみです！最後に頂いた元気茶を、日本で台湾を想いながら頂きたいと思います。(常木綾子)



□花園夜市

夜は待ちに待った花園夜市に行ってきました¥(^o^)/花園夜市は毎週木・土曜日に開かれていて、私たちが行った日が休日ということでたくさんの人で賑わっていました！グルメ・娯楽・衣料雑貨と3つのスペースに分かれていて、とても見やすく安価で満足度満点の空間になっていました♪日

本では見たことのない食べ物がたくさん並んでいてどれも魅力的でした。中でも豚や鴨の血とごはんを合わせたものや臭豆腐は、独特の味やにおいがあったので私は特に印象に残っています。あとおばさんに薦められてネイルを衝動買いしちゃいました(*´艸`*)大阪のおばちゃん並みでした！(笑) 娯楽においてはダーツや水風船を使ったものなどバリエーションが豊富でわくわくさせられました。台湾で一番規模が大きい夜市だけあって、人々の心をひきつけるものがたくさん盛り込まれていた場所でした。(川村愛)



2月24日(日)

□烏山頭ダム

恥ずかしいことだが、私はこのツアーに参加するまで、八田与一のことを知らなかった。八田与一は素晴らしい人物であった。仙台での見た映画、実際に八田与一が設計したダム青空のもとに見て、私はそのことを知った。

八田与一は、日本人であるが、台湾統治時代に台湾に派遣され、烏山頭ダムを設計、建設した。紆余曲折のなか、ダ





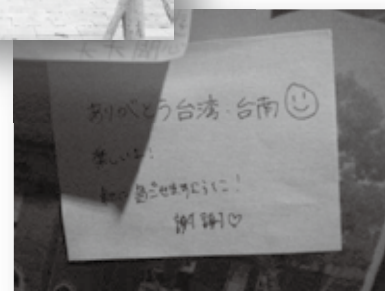
ムは完成した。それまでは、農家は水不足に悩まされており、苦しい生活をしていた。八田はそれを解消したのである。それだから、八田与一は台湾の人々に愛されている。それは、今でも変わらない。私たちがダムを訪れたときも、八田の像の前には、花が枯れることなく供えてあったし、そして現地の人の私たちに対する愛嬌から伝わってきた。ダムは今でも使われる。私は台湾に行って誇るべき人間を見つけることができた。とても胸が熱くなった。(山内崇寛)

□樹谷生活科学館

樹谷会館の目の前にある、樹谷生活科学館を訪れました。奇美グループ系列の、とてもきれいな科学館でした。その名の通りただの科学館ではなく、科学と台湾の歴史文化とを絡めた展示が興味深かったです。



東日本大震災についてのブースもありました。「送愛到仙台」の展示を見て、遠く離れた台湾の地でもこの震災に心を寄せてくれているのだと、温かい気持ちになりました。壁一面に自由にメッセージを書けるスペースがあったので、みんなで感謝の言葉を書きました。(多賀野惇久)



□日本文化 PR ブース

樹谷科学館の前で、日本文化 PR ブースを設置しました！浴衣着付けコーナー、お正月の遊びコーナー(年賀状、折り紙、こま、けん玉など)、震災のビデオレターコーナー(中国語字幕付き)を設け、現地の方々に日本の文化を紹介しました。当日は台湾の高校生もお手伝いに来てくれ、ずらりと列をつくって現地の方々が大量訪れるほど PR ブースは大盛況でした。嬉しそうに浴衣姿で家族写真を撮ったり、笑顔で私たちに話しかけてくれる姿が非常に印象的でした。日本にこんなにも興味を持ってくれることへの嬉しさの感謝の気持ちでいっぱいになりました。(服部麻衣)



□旧正月のお祭り

海の神を祭っている大きな寺の彩色は豊かで赤青金の極彩色でまわれ華やかでした。参拝の方法を教えてもらいながら祈りを捧げ、終始敷地に響き渡るアップテンポの曲や踊りに圧倒されていました。祭りの終盤には花火が絶え間なく打ちあがり、寺の近くの真下で見ていた私たちは降ってくる花火の燃えカスに動揺しながらも日本では絶対に見られない光景にわくわくしました。さらにロケット花火を発射して厄払いするという意味から発展し、数千本ものロケット花火を構えた発射台の近くにはフルフェイスに厚手の服を着て参加する人が沢山いて、地上から広がる花火はまるでアトラクションのようでした。(田崎帆乃実)



2月25日(月)

□客家料理

この日の昼食は客家料理でした。(先住民の村へ行く途中、立ち寄った食堂で食べました。)白いご飯に、野菜と肉の入ったさっぱりしたスープ、それに肉や野菜炒めと食事のバランスもよく、日本人好みの味付けでした。みんなで円卓を囲み、次から次へと出てくる料理をほおばりました。でも、正直、寝起きだったし、何食べたか詳しく覚えていません。ごめんなさい！(森田悠記子)



□先住民生活体験

私達が宿泊させてもらったブヌン族の村は標高の高いところにあり、空気が清々しくて息をするのが気持ちよかった！村の中は塀に石で先住民の生活が描かれていたり、動物の骨がつるしてあったりする中で普通に洗濯物が干してあったり、靴が散らかっていたり、混沌としていた。畑にはマンゴーの木がたくさん植えてあったが、まだ時期ではなかったのが残念だった。弓矢の体験もさせてもらったが、狩りをする前には神聖な儀式が行われるそうで、自然と命に対する尊敬の念を感じ取ることができた。実際に体験すると、見ているよりも格段に難しかった！！(佐藤愛衣)





□先住民の村でのパーティー

「えっ」と思わず声に出してしまうほどの衝撃。イノシシがまるまる火に炙られていました。広場にはたくさんのごちそうが並んでいて、粟のスープや竹筒に入った粽など、どれも見慣れないものばかり。最高においしかったです。食事のあとは、先住民のみなさんが伝統の八部和音やダンスを披露してくださり、鍛え上げられた男性の肉体美にうっとりする女子が続出！（笑）だんだん我慢できなくなって、ステージに乱入する男子が続出！最終的にはみんなで手を繋いで、目と目を合わせ、踊り、歌いました。言葉は分からないけれど、伝わる思いと繋がる気持ちを実感し、星が見える時間になるまでわいわい楽しみました。笑顔が絶えない幸せな時間でした。（浅野早紀）



2 月 26 日(火)

□先住民文化体験

布農族特有のカレンダーを作った。木の板に絵を描き、生活のリズムを刻むというもの。絵によって自分たちの生活を記すというのは布農族特有の文化なのだそう。みんなそれぞれの 1 日、1 週間などを思い思いに刻んでいた。その後、千歳吊橋という大きな橋を渡った。渡りきった人は長生きできるという言い伝えがあるという。今では村と村をつなぐ生活の一部になっているようであった。また、別の村の散策もしたが、村中に壁画や史跡などがあり、原住民の歴史と文化を後世に受け継ぐ役割を果たしていた。村のお年寄りの中には日本語を話せる人も多かった。

(木村あずさ)



□梅の料理

先住民生活体験二日目のお昼は梅料理のレストランで。約 10 種類の料理が出た中でほとんどの料理に梅の風味が!!!一番びっくりしたのがエビを梅酒でつけた料理です。このエビを食べると、エビを食べているのに「梅酒だ!」となります。日本の梅はとても酸っぱいものが多いですが、ここで食べた梅干しは甘酸っぱくまろやかな梅で、どの料理もパクパク食べれちゃう感じでおいしかった。こんなに梅料理を堪能したのは初の体験でした。(渡邊麻衣)





□感謝カード作り

樹谷会館に泊まる最後の夜。サポーターへプレゼントするフォトアルバムを班ごとに作成しました。写真に、メンバーのプロフィールや一週間の思い出、お世話になったサポーターへのメッセージなどを添えたアルバムです。完成品は思わず欲しくなってしまうほど素敵な仕上がりになり…！みんなで思い出を振り返りながら作業するのは楽しくもあり、寂しくもあり。短くも充実した時間を過ごしてきたことを実感しました。

(武田小百合)



2月27日(水)

□大洲地区

大洲地区は自然と人間が共存できる地区でした。自然にあるものを全て生かし、循環させ、無理・無駄がない生活を目指していて、本来人間がすべき生活する要素が詰まっている空間だと感じました。第一回のメンバーが作った柵もありこの訪問団の歴史を感じられました。私たち震災を受けた身として、大洲地区の外界への依存を減らすことによって、災害への対処ができるという考えは仙台でも、世界各国でもこういった生活を行っていかなければならないと感じました。(星寿寿美)



□奇美博物館

楽しみにしていた奇美博物館、沢山のコレクションに心踊りました。絵画や楽器、家具や風習を伝える民具などジャンルは幅広く、中でも手回しオルガンやオルゴールは実際に演奏を聴く事が出来て楽しめました。特に印象的だったのはミイラです。展示品が台湾に限らず世界各地から集められていることに驚きました。

帰りに車窓から見た新しい博物館はとっても大きく美しかったです。次回台湾に行く時は更に魅力的な博物館に期待です☆(中嶋灯奈)



博物館入口にも像が立ち並ぶ



車窓から見た新しい博物館

□海で...

博物館の時間を短縮して、急遽海に行くことになりました。到着すると体が自然と動き、海に向かって走り出していました。着替えを持っていなかったのであまり海にはいる人はいませんでした。それぞれが充実した時間を過ごすことができました。私は海に入って沢山の人たちに投げ飛ばされました(笑)この時期に海に入ることは仙台では絶対に考えられないので、私の一番のお土産話になりました。…この時、ルックがノーパンだとは誰も知らなかった。(菊地佑香)





□お別れ交流会

毎日一緒にいてくれた大好きなサポーターたちとのお別れ会は、とても楽しくて時間が過ぎるのがあっという間でした。俗に言う「このまま時間が止まってしまえ！」という現象に陥りました。台湾サポーターが踊ってくれた「ヘビーローテーション」と「你是我的花朵」はとても思い出深い曲となりました。私たちが踊った「会いたかった」も台湾サポーターにとって思い出の曲になってもらえたかな。最後に合唱した「ありがとう」は全員が感極まって、目から透明の液体が流れ出していました。笑顔で始まり、笑顔と涙で終えたお別れ交流会は最高の思い出となりました。(遠藤麻矢)



2月28日(木)

□最終日

とうとう帰国の日を迎えました。この日は早朝からの移動。ホテルのロビーに集合して、空港行きのバスへと乗り込みます。帰り道はなぜか早く感じてしまうもので、あっという間に空港へ…。台湾は連休の初日だったようで空港は大混雑！飛行機の出発が遅れるなどのトラブルもありましたが、全員無事に仙台へ到着しました！それぞれがいろんなことを感じ、学んだ1週間。空港に降り立った時、出発前とはまた違う輝きを放つみんなの表情がとても印象的でした！このツアーに関わって下さったすべての方々に心からの感謝をするとともに、今回結ばれた絆がずっと続いていこう、これからも交流を深めていきたいです！(太田恵)



□ 私たちを1週間お世話してくれたサポーターのみんなについて

1 班: JAY

いつもみんなが楽しめるように場を盛り上げてくれたファッションモンスター(笑)

2 班: アクビ(22 日はかりん)

どんな時もずっと笑顔を絶やさなかったアクビ！みんなのアイドルベ(@^▽^@)ノ

3 班: かおり

美人で優しくてしっかりしてて頭も良い完璧女子なかおり♪(^o^♪)≡(/^-^)/””

4 班: カニ

おしとやかそうだと思っていたけど、ブヌン族のダンスでは意外な一面を見てしまった(笑)

5 班: くま

みんなをまとめてくれるしっかり者のリーダー、くま((o(°▽°O)(O°▽°o))！

6 班: ルック

最後の最後にまさかのカミングアウト…！你穿内裤(パンツ穿いて)！哈哈

7 班: サトシ

台湾のイケメン。7 班は女子しかいないので女子高の先生的な感じだった(*°▽°)ノ！



謝謝你們！你們不要忘記我們！

歡迎你們來仙台，到時一定跟我們聯絡！

(吉原友梨)



□台南青少年訪問団メンバーの様子

この旅で感じたのは、メンバー全員が楽しいことが大好きで、明るく、いつも笑顔が絶えない人ばかりであったこと。また、メンバー1人1人、いろいろな個性を持っていて、それがあらゆる場面で発揮されていたこと。

1週間という短い期間の中で仙台のメンバーはもちろん、台南のサポーターと共に生活し、話したり、笑ったりして深い交流ができた。個人的に印象深いのは、原住民の踊りを全員がステージの上に上がって踊ったことで、4期メンバーのノリのよさを表していると思う。最後のお別れは本当に寂しいものであった。(菅野恵)





日本文化 PR ブース



台南滞在4日目の2/24(日)、樹谷科学館の前で日本文化PRブースを設けました。PRブースの中では浴衣の着付け、日本の正月体験(正月遊び、年賀状制作体験、折り紙体験)、ビデオ放映の3つに分かれ、それぞれ団員が分担して活動しました。当日は日本語を勉強している台湾の学生 30 名ほどがお手伝いに来てくれました。

日本で事前に準備をして行ったは良いものの、実際このブースがどの程度の集客力があるのかは誰にもわからない状態でした。しかしふたを開けてみると、数百人ものお客さんが来てくれ、お互いに文化交流を楽しみました。



★浴衣体験★

日本から女性用、男性用、子ども用の浴衣を持参し、その場で着付けをしてチェキで撮った写真をプレゼントしました。ブース開設前から終了時間が過ぎた後までずっと人気が続かず、浴衣数と着付け要員が倍必要だったと感じるほど繁盛しました。友だち、親子連れ、祖母と孫、妊婦さん、いろんな方が来てくれました。言葉が通じない中でも着付けをしながら笑顔で交流を図ったり、「漂亮！(きれい！)」と声をかけたりしました。皆さん笑顔で写真を撮って大切にしてくれていたのも、日本の文化を誇らしく思うとともにとても嬉しく感じました。(服部)



★正月体験★

正月体験コーナーの中で正月遊び、年賀状制作体験、折り紙体験の3つに分けられました。

☆正月遊び☆

正月遊びコーナーでは竹とんぼ・めんこ・万華鏡・おはじき・だるまおとし・こま・けん玉をしました。体験に来られた人は小学生から大人の方まで幅広く、中にはハマってずっとけん玉に挑戦し終了数分前に全部クリアできた方もいました。台南の子どもたちと触れ合うとても良い機会でも、一緒に遊ぶうちに自分もわくわくしてきました。中国語が話せなくても身振り手振りで伝わることの大きさに感動できる時間でもありました。(中嶋)





☆年賀状制作体験☆

このコーナーでは、はがきサイズの用紙に「あけましておめでとう」の文字と今年の干支「巳」の絵を書いて、日本の年賀状文化を体験してもらいました。子どもの来場者が多く、親御さんに手伝ってもらいながらそれぞれの年賀状を仕上げていました。台湾には年賀状の文化がないということで、来場者のみなさんは私たちの説明に興味をもって耳を傾けてくださり、ひらがなも一生懸命書いてくれたので嬉しかったです。逆に台湾の新年の挨拶も教えてもらいました。「新年快樂！」今度はぜひこの言葉を使って台湾の方々に年賀状を書いてみたいと思いました。(邊見)



☆折り紙☆

このコーナーでは台湾の方々と一緒におりがみを折りました。小さい子供たちがたくさん来てくれて、おりがみコーナーは賑わっていました。様々な種類の折り方を用意していましたが、特に人気だったのは鶴と手裏剣でした。台湾の方たちにとっておりがみは難しかったようでしたし、私たちも言葉が分からなかったり上手く説明できなかったりと大変でした。でも、完成すると台湾の方は喜んで「ありがとう」と日本語で話しかけてくれたり一緒に写真を撮ってくれたりしたので私たちもとても嬉しい気持ちになりました。(坂本)



★ビデオ放映★

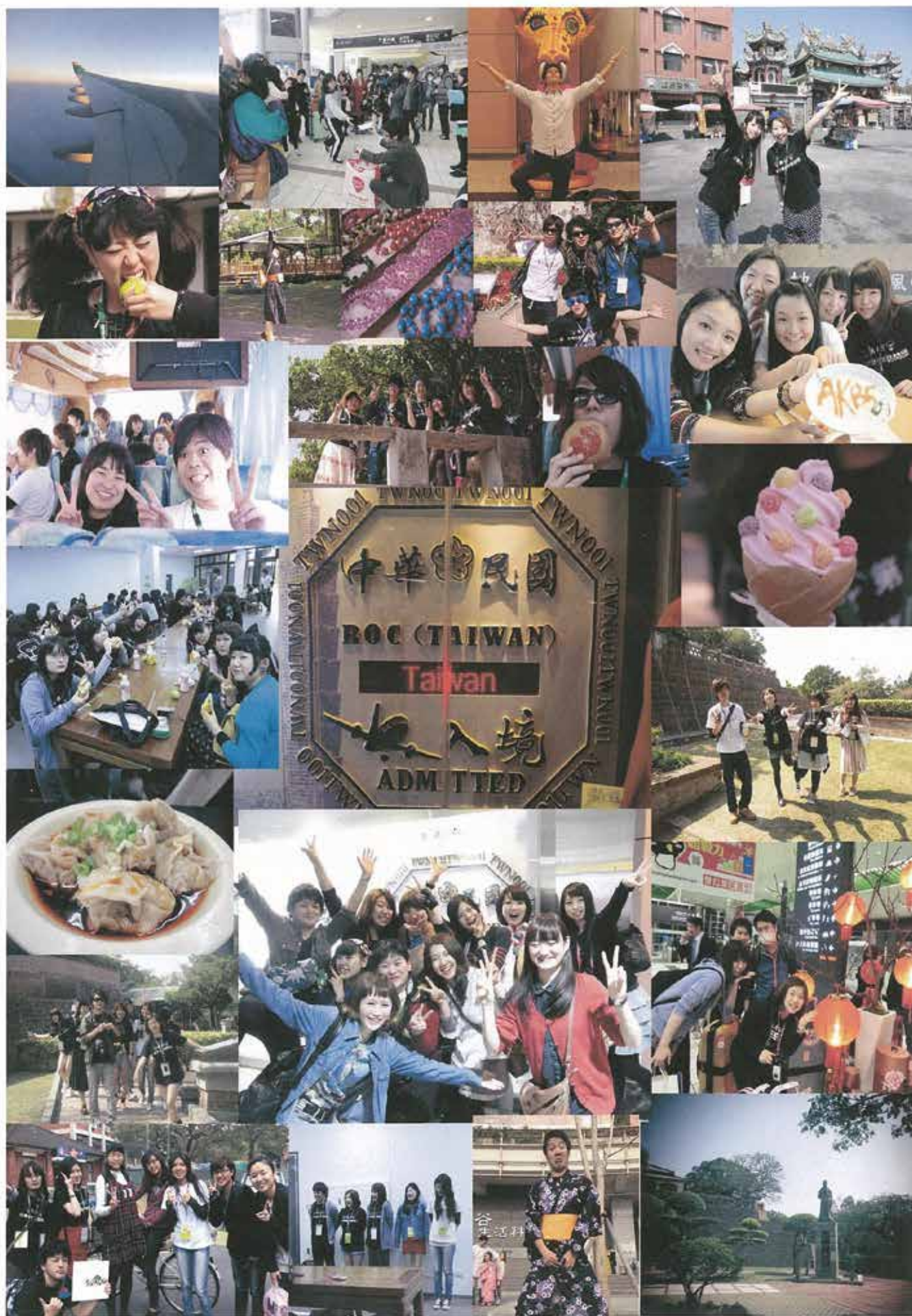
このコーナーでは、動画を放映しました。石巻復興商店街、気仙沼復興マルシェ、陸前高田の月山神社、中野小学校を訪れ、インタビューを行ったものです。当日は専門のブースを設けていただき、観ていただくことができました。大きな犬が、画面をじっと見つめていたのがとても印象的です。もっとたくさんの方に観ていただく工夫ができたと思います。それが今後の課題です。

本当にいろんな方の協力があって動画は出来ています。見栄えのある作品に仕上がったのは、みなさんのおかげです。ありがとうございます。(山内)



私たち団員側から台南市へお返しができる数少ない機会のひとつでした。

言葉の壁を越え、一丸となって台南市に感謝の気持ちを伝えられたのではないかと感じます。



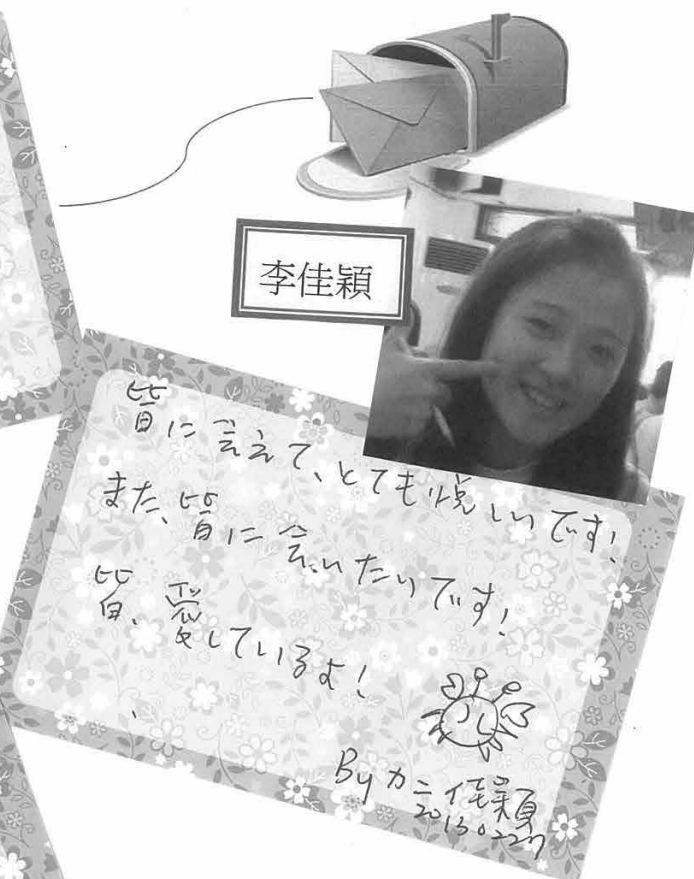




台湾サポーターからのメッセージ



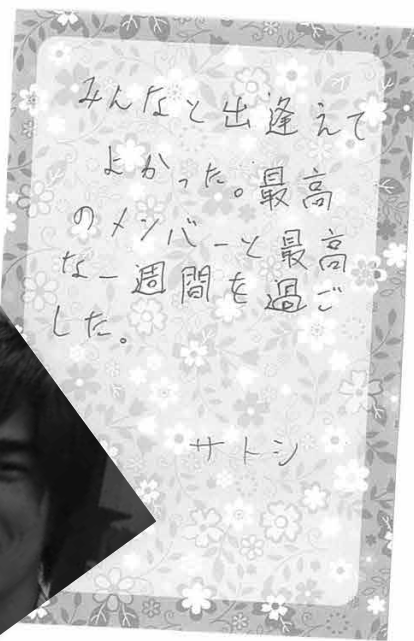
楊馨芳



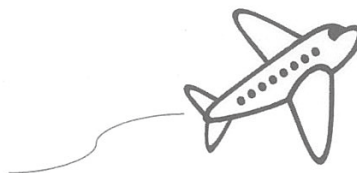
李佳穎



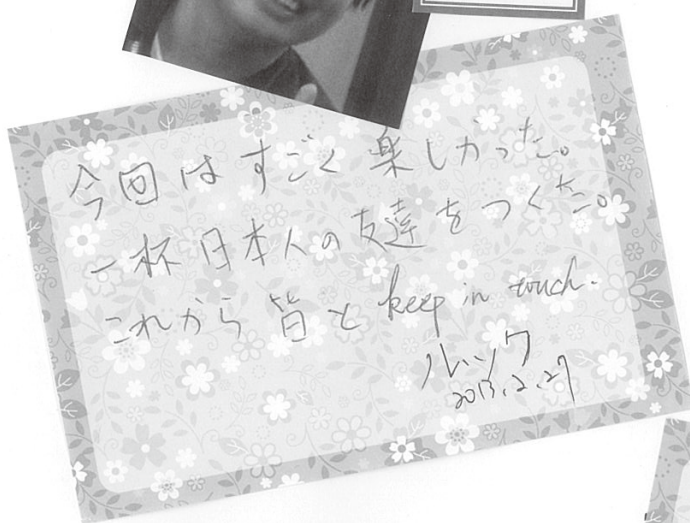
許瑞英



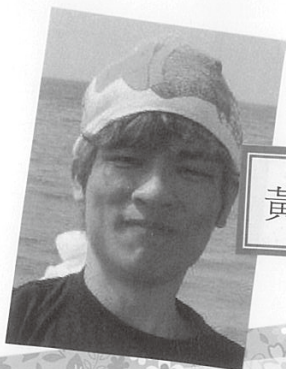
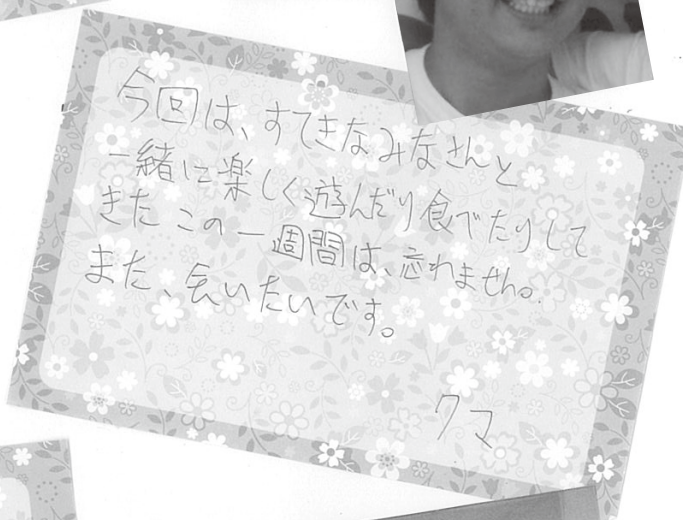
劉哲佑



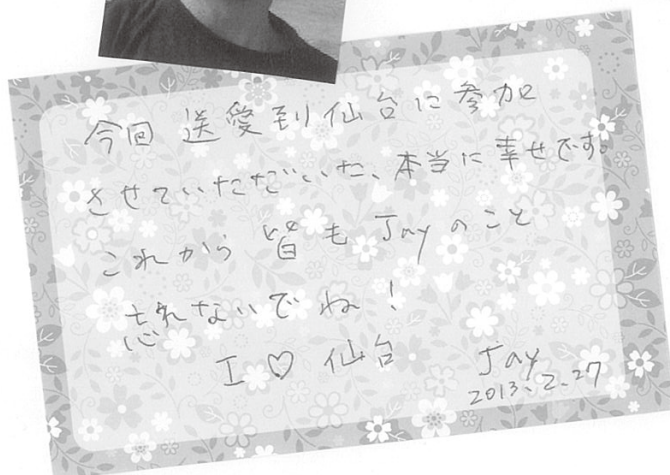
鄭宇傑



林彦廷



黃柏宗



日本人サポーターからのメッセージ

～第4期のツアーを終えて～

私は、第三期で団員として参加し、そこで自分が想像していた以上に多くの素敵な気持ちを得る事が出来た事から、第四期の団員の人々が私と同じ、もしくはそれ以上の気持ちを味わえる様お手伝いをしたい、そう思い第四期のサポーターに応募致しました。しかし、私が思い描いていた想いとは裏腹に、実際に台南に行くと緊張ととまどいの繰り返しな上に、おっちょこちょいな私は、団員の皆、そしてもう一人のサポーターのくんに助けられる事が多々ありました。ですが、今回サポーターとして参加させて頂いた事で、台南でサポートして下さった方々の大変な努力、強い想いを直に感じる事が出来、愛を送って頂いた私達のこれからの使命、伝えていくべき事を改めて強く見いだせた気がします。たくさんの愛を受け取って仙台に帰って来た私達は、誰もがこれで終わりではなく、仙台と台南の結びつきを更に強めていく役目を務めていく事が、この送愛到仙台プロジェクトに携わって下さった皆様への最大の恩返しではないかと考えます。今抱いている、台南への感謝の気持ち、台南が大好きという暖かい気持ちをいつまでも皆が忘れず、多くの人々に伝えていけたらそこから大きな送愛到台南が生まれてくると、私は思います。謝謝台南！我愛台南！！大好き！！



西澤 良香

今回サポーターとしてこのツアーに参加し、前回とはまた違う視点でこのツアーを考えることができ、さらには前回自分たちが参加した時のツアーの反省が、自分も含め四期のメンバーにいい意味で反映され、終わってみると前回をも上回るほど充実したモノになったように感じます。サポーターといってもできることは限られるし、首を突っ込みすぎるのも違うと自分の中で思っていたので、事前研修の際にスムーズに企画が進むよう前回の様子などをメンバーに伝えることや、現地でみんなが楽しく元気に毎日を過ごせるよう、みんなの様子を見ようと心がけていました。実際今回のツアーでは、出発前に体調不良で参加できなくなってしまった人や、現地でも体調を崩してしまう人などトラブルが起こったりもして、サポーターが改めていてよかったなと思うことが多かったです。とは言っても、現地では自分もほぼツアー参加者であつたし、原住民の村やお祭りなど楽しいこと学ぶことが多く、自分の立場を忘れていたことも多かったです。



今思うことは、このような仙台と台南のつながりを強く感じる機会をいただき、参加者のほとんどが台南のことが好きになり、台湾の人の温かさを肌で感じています。この機会を感じたつながり、絆はこれだけで終わらせてはもったいないし、これからもずっとさまざまな形で続けていかなければならない、そして、その先頭に立つのがこのツアー参加者でありたいなと強く感じています。

最後に、グレースをはじめとする奇美の方々、俊さん、赤坂さん、課長、よしぴょん、そして台湾サポーター、ツアーメンバーには大変感謝しています。ありがとうございました。

速水 邦晃



同行者より

当初参加予定だったスタッフのうちの一人が参加できなくなったため、途中からですが、急遽、参加することになりました。

日曜日の午後、台北行きの飛行機は、小雪の舞う仙台空港を30分遅れで出発し、その日の夜には台南の宿泊先である樹谷会館に到着しました。第1回、第3回のツアーにも参加し、今回で3回目の参加となるので、樹谷会館やその周辺はよく知っており、また、受入れ側の担当者であるグレースさんや台南に住む日本人学生の嶋田さんなどに再会し、懐かしい場所に戻ってきたような感覚を覚えました。

さて、今回のツアーで、私が、一番、印象に残っているのは、台湾の先住民族の一つであるブヌン族の村のたたずまいとそこで聞いた子どもたちの合唱です。台湾最高峰・玉山に続く山々を望む、桜の花が咲く高台にブヌン族の村がありました。ブヌン族の歴史を聞きながら、のどかで美しい村を散策し、その翌日には、近くの小学校を訪問し、子どもたちの合唱を聞きました。子どもたちは、「拍手歌」という、拍手を交えながら歓迎の意を表す曲を力強く歌い上げました。学校訪問は、当初のスケジュールに入っていなかっただけに、それは、私たちにとって思いがけないプレゼントでした。多くの日本人学生も、このプレゼントに深く感動していたようでした。

私は、これまで3つの先住民の村を訪問しましたが、それぞれに固有の異なった文化を持っていることに、改めて気づかされました。また、合唱で知られたブヌン族の文化がこのような形で子どもたちに引き継がれていることに感慨を覚えています。

台湾の文化的豊かさや人々の変わらぬ暖かさに触れ、台湾がますます好きになりました。若者らしい率直さで、たちまち、台湾の学生サポーターたちと仲良くなった日本人学生たちも、台湾が大好きになったようです。

引き続きツアーにおいても、台南市の方々への感謝の気持ちを忘れないとともに、仙台と台南の青少年の交流が一層の広がりができるよう努めてゆきたいと思います。

仙台国際交流協会企画事業課長 佐藤 剛

ツアーへの同行は、前回に続き2回目でした。2月の台南は、日本の春～初夏のような気候で大変過ごしやすく、先住民の村では満開の桜が見られるなど、8月に訪れた真夏の時期とはまた違った趣がありました。

第4回目となるツアーでしたが、布農族の村を訪問し、小学生の心温まる合唱を聞いたり、成功大学訪問では実際にそこで学ぶ学生がキャンパスを案内してくれたり、前回までとはまた違った行程となっていました。奇美グループの方々には、活動内容に毎回工夫

を凝らし、回を重ねる毎により良いプログラムを企画・提供していただいていることに、感謝の念が尽きません。特に、今回こちらの要望で日本文化 PR ブースを出展し、市民との交流の場を設けていただいたことは貴重な体験でした。本番まで様々な不安があったものの、当日はイベント開始前に既に長蛇の列ができ、どのコーナーも大盛況でした。休日ということもあり親子連れが多く、学生は昔遊びなどを通して子供達との交流を夢中で楽しんでいるようでした。また、当日はボランティアとして高雄市の高専生が駆け付けてくれ、短時間ではありましたが学生同士仲を深めていました。今後は、ご担当の方々のご協力をいただきながら、ツアーの随所で震災支援への感謝を伝えるとともに市民との交流ができる場を多く作っていかれたらと思っております。

これまで、第1～3回目参加者の大交流会が行われたり、ツアーで関わった学生サポーターが日本へ留学したり、第4回ツアー中に前回ツアーのサポーターが顔を出してくれたり、このツアーを通してたくさんの交流が生まれているのを目の当たりにしました。私自身このツアーに同行できたことを嬉しく思うとともに、こうした継続的な交流の機会を与えてくださった台南市政府、奇美グループの方々には心から感謝申し上げます。このような将来につながる交流が、今後も続いていくことを願っております。

最後に、このツアーの実施に携わってくださった全ての方々に、深く御礼を申し上げます。本当に、ありがとうございました。

仙台国際交流協会企画事業課企画係 赤坂恵利加



※両同行者の課名、役職名はツアー参加当時のもの

編集後記

この台湾訪問で台湾の方々から、あたたかい歓迎を受けました。日本人として、とてもうれしかったです。しかし、日台の関係を深めていくためにはもっと活発な意見交換が必要だと思います。今後、相互理解の場が増え、日台の絆が一段と強くなることを祈ります（森田悠記子）



はじめは報告書を作成するのは大変だと思っていましたが、実際に書いてみると台南での思い出が鮮やかに蘇ってきてとても楽しかったです！“報告書”という名前ですが、写真もたくさん入っていて非常に思い出深い一冊になったと思います。台南市青少年訪問団に参加できて、たくさんの人に出会えて本当によかったです！ありがとうございました。（邊見ふゆみ）



報告書を書いていると台南のことが懐かしく感じられ貴重な経験をしたな、と改めて感じました。台南にいた一週間だけでなく、企画や編集を含め沢山の充実した時間が過ごせたこと、とても嬉しく思っています。お世話になった多くの方に感謝の気持ちで一杯です。皆で作上げた報告書、ずっと大事にしようと思います。（中嶋灯奈）



日本文化PRブースの準備と報告書の編集でハードな班ではありましたが笑、大好きなメンバーと無事完成させることができて良かったです。協力してくださった方々に感謝したいです。たくさんの思い出が詰まった台湾での1週間を完全に伝えきることはできませんが、少しでも私たちが現地で体験したこと・感じたことが伝われば幸いです。（服部麻衣）



みんなで行った台南ですが、感じたことはそれぞれ違っていると思います。もともと色の強いメンバーが集まった4期なので、報告書も各ページ色鮮やかな事でしょう。この報告書でまた違った形でみんなと台南ツアーを共有できると思います。冊子のできあがりを楽しみます。最後に、報告書班のみなさんお疲れ様でした！（佐藤愛衣）



みなさんが書いてくれた団員レポートや活動班紹介を編集していると楽しかった思い出が蘇り、台南が恋しくなっていました。この報告書を読んで、メンバーのみんなやサポーター、関係者の方々も、台南での一週間を思い出すことができたらいいなと思います。みなさん報告書作成へのご協力ありがとうございました！（坂本奈央）



このみなさんが、報告書をつくってくださいました。本当にありがとうございます。私はただ見ただけでした。（笑）この報告書は、私たちの、そしてこれまでの、これからの訪問団の宝になることと思います。編集後記の編集後記でした。お疲れさまです！（山内崇寛）



送愛到仙台



第4回台南市青少年訪問団Tシャツデザイン

東北工業大学3年 遠藤麻矢

このTシャツのデザインは、仙台と台南が関わることでたくさんの発見・ひらめきがあると思います。電球の両手にある台南と仙台の旗で友好関係を示しています。

第4回台南市青少年訪問団 報告書

編集・発行 公益財団法人仙台国際交流協会

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山 仙台国際センター内

TEL: 022-265-2480 FAX: 022-265-2485

E-mail: plan2@sira.or.jp HP: <http://www.sira.or.jp>